

11月11日(土)～12月10日(日)

人権を考える 強調月間です

毎年、人権機関有田川では、人権意識の育成と高揚を図ることを目的に、人権啓発標語の募集を行っています。

今年度は「いのち」をテーマに募集したところ、小学生の部530点、中学生の部649点、一般の部24点の応募をいただきました。ありがとうございました。その中から優秀作品をご紹介します。

人権啓発標語優秀作品

小学生の部

最優秀賞

思いやり 命を守る 第一歩

鳥屋城小学校5年 山崎 心結

優秀賞

大切に あなたのかわりは

見つからない

藤並小学校6年 柏原 愛澄

中学生の部

最優秀賞

気づこう 言葉の重さ 命の大切さ

吉備中学校3年 今井 弥耶日

優秀賞

同じでいいのは 命の重さ

違っていいのは 人の個性

吉備中学校1年 関 慶吾

一般の部

最優秀賞

感じよう 今を生きている この命

有田中央高校清水分校1年 林 蒼河

優秀賞

きみとぼく 命の重さは

どちらも同じ

有田中央高校清水分校3年 東本 海史

花田景子氏講演会に参加して

貴乃花部屋の女将花田景子氏による「母として、妻として、女将として」と題した講演会。当日はたくさんの方で会場が埋め尽くされた。

元テレビ局のアナウンサーということもあり、テンポ良く、柔らかな口調でスタートした。貴乃花親方と弟子たちとのコミュニケーションの取り方や、悩みを抱えている弟子に女将としてどうアドバイスをしているのかなど、実際のエピソードを交えてお話しいただいた。

貴乃花親方が横綱のとき、彼は毎日ストイックな生活を送っていたという。

生活する上での動作、全てが鍛錬とすることで、椅子から立ち上がる場合でも勢いを付けて立つのではなく、ゆっくり立つことで自重がかかり身体が鍛えられ、筋肉を養っていたこと。部屋や廊下を歩く場合も、ゆっくり歩き、毎日同じ動作を繰り返すことで昨日と違うところを知ろうとしていたこと。

雪駄を脱ぐときには、手を使わずに足の指だけできれいに並べること、足の指の鍛錬をしていたこと。これらは全て、身体を気づかい、筋肉や筋を痛めないようにするためであった。

また、何年前だったか、貴乃花は場所中の取組で、膝に大けがをした。付き人の手を借りなければ、支度部屋に戻れなかった。それを見ていた師匠の二子山親方は「今場所はもう休場しろ」と貴乃花に伝えた。しかし、貴乃花は承知しなかった。翌日も負け、千秋楽の決定戦まで、けがを押しての出場となった。結果は、武蔵丸関を破り、見事優勝。貴乃花の不屈の精神はすごいものだ。

貴乃花部屋の稽古はどの部屋よりも厳しいと言われている。弟子たちは4時30分に起き、5時にはまわしを付け、5時30分から稽古を開始する。砂、汗、そして涙で弟子たちの顔は真っ黒。こうした日々の稽古を通して、礼儀正しさや兄弟子を敬う心が養われるという。女将になると、それまでと生活が随分変わったそうだ。部屋の運営・広報・営業・企画……。やらなければならぬことは多いが、一番重要なのが弟子たちの「お母さん」であることである。食事を作るようになって一番驚いたことは、弟子がたくさん食べるのは、ライバルと戦うとき、けがをしない身体を作るためであるということ。精神面では、なかなか勝てない弟子

の話の聞いたり、口には出さない弟子の思いを探ったりする。そして、師匠の思いや考えを弟子に伝える。どのタイミングでどのように話していけばいいのかが大変難しい。そこで、場所後にある1週間の休みを利用して、弟子たちを食事に誘ったり、一緒に映画を見に行ったりして、コミュニケーションの場を作るようにしているのだそうだ。

アナウンサーから、勝負師である相撲の世界に入った。大変な苦労もあるが、弟子が横綱との取組で金星を挙げたときは、女将だからこそその喜びの涙を流すことができる。親方を支えてきた経験、女将としての経験は貴重なものである。「経験は無駄にはならない。その人の財産になる」。印象深い言葉だった。

人権機関有田川委員 上田 玲子

お知らせ

人権特設相談所

11月16日(木)、人権特設相談所を開設いたします。相談は無料で、秘密は厳守されます。

●場所／二川住民センター
●時間／13時～16時

人権に関する問い合わせ

有田川町教育委員会 社会教育課
TEL 5221111
FAX 3244827